

社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会
(平成22年度第1回)

議事概要

1. 日 時 平成22年12月14日(火) 15時40分～17時40分

2. 場 所 札幌第1合同庁舎10階 共用1・2号会議室

3. 出席者

[委員長]

加賀屋 誠一 北海道大学大学院 教授

[委員]

越澤 明 北海道大学大学院 教授

高向 巖 (社)北海道商工会議所連合会 会頭

田村 亨 室蘭工業大学 教授

平岡 祥孝 札幌大谷大学短期大学部 教授

古屋 温美 北海道大学大学院 特任准教授

山崎 幹根 北海道大学公共政策大学院 教授

4. 議 事

(1) 挨拶

・北海道開局長

(2) 審議

- ・事務局より説明された北海道地方小委員会運営規則(案)は了承する。
- ・事務局より説明された北海道地方小委員会傍聴規程(案)は了承する。

<委員からの主な意見等>

【北海道地方の課題と道路における取組について】

- ・北海道の成長戦略に資する道路ネットワークとすることが重要。
- ・防災(特に雪と火山)は特筆すべき課題。評価の仕方が重要。
- ・医療アクセスの課題も重要だが、生活圏へのアクセスも重要。
- ・教育機関へのアクセス(通学等)も重要。公共交通機関との関わりを含め検討する必要がある。
- ・総合交通の中での道路の役割を考えていくべき。
- ・北海道の特性について、道内外にいかに関心を得るかが課題。他の地域に比べ遅れているという観点だけでなく、北海道地方が全国に貢献するという観点も重要で、そのための道路整備という論拠が必要。
- ・広く北海道全体かつ一般の方々の意見を踏まえるような議論とすることが望ましい。

【北海道横断自動車道（黒松内～余市）計画段階評価の試行について】

- ・ 高速道路の整備は、長万部、倶知安、小樽に北海道新幹線がアクセスされた場合とセットで考える必要がある。新幹線が整備された場合、現在の函館本線との継続には課題が多いことを踏まえると、移動が道路によらなければならないことをしっかりと認識することが必要。
- ・ 高規格幹線道路というネットワーク整備と並行する一般国道の管理をそれぞれの役割から、どうしていくべきかを考える必要がある。
- ・ 北海道の高規格幹線道路全体の中での優先順位を考える必要がある。
- ・ 国際的な観光ニーズをマーケティングし、将来どのような使われ方をするのかを把握することが必要。
- ・ 一次産業においても、付加価値の高い資源をどの様に運ぶか、世界に打ち勝っていくためにどうすれば良いかを自治体や企業側が考え、道路を使いこなす努力が必要。
- ・ 人の動き、物の動きを詳細に把握したうえで、道路の議論をすることが必要。
将来の北海道を見据えて（北海道経済をどうつくっていくか）の議論が必要。
- ・ 政策目標の設定において、地域の意見聴取だけではなく、地域の整備計画と整合を図ることも必要。
- ・ データからの想定だけではなく、地域の人たちから意見を聞くことも必要。
- ・ 時間短縮がどのような社会的効果を生むか調査が必要。
- ・ 整備効果が地域の実情と合っているかの検証が必要。
- ・ 黒松内～余市の区間の場合、農産物の輸送効率化の観点での整備効果は限定的なので、地域の医療や生活の観点から必要性を説明することが求められる。
- ・ 人もさることながら、物をいかに運べるかを考えて整備することがこれから大事になってくる。
- ・ 計画段階評価について、全国3箇所ですべて試行というだけでは全体像が見えてこない。
- ・ 高速道路の整備手続きの体系見直しが行われている中で、基本計画区間に指定されていることの意味等や、昨今の情勢を踏まえた整備に関する考え方などを次回再度説明いただきたい。
- ・ 代替案を検討するときに、地域戦略と合致することが重要。

【道路分科会地方小委員会のあり方について】

- ・ 冬柴大臣当時、国の道路政策・道路計画の客観性・透明性の確保のため、社整審という第三者委員会の活用を何度も国会答弁している。その方針は政権交代でも継承され、道路分科会地方小委員会の設置になったと受け止める。
- ・ 地方小委員会が第三者委員会であるとの社会的な評価を受けるためには、地方小委員会での議論は幅広であってもかまわない。
- ・ 地方小委員会の運営の流れや小委員会の役割について、再度議論したい。

以 上